



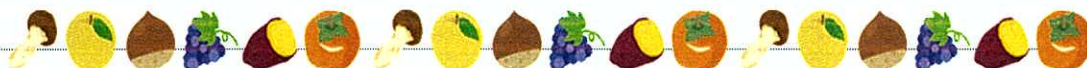
News Letter

October

Vol.25

こんにちは！エスパイエスです。

今年も残すところあと2か月となりました。皆様はいかがお過ごしでしょうか。コロナの影響は相変わらずですが、ワクチンの普及で徐々にわたしたちの生活に希望が見えてきたところではないでしょうか。早く自由に外出できるようになることを期待しております。



さて10月といえばハロウィンです。今年もステイホームのなか、「ハロウィンに見たい映画3選」を紹介させていただこうと思います。



1. ハロウィン(1978)

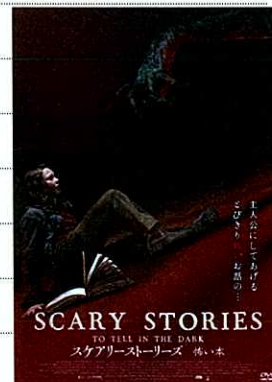
15年前、包丁で自らの姉を殺害したマイケルが精神病院を脱走し、ハロウィンの夜に故郷に戻る。担当医ルーミスの追跡をよそに、白いマスクをつけ、包丁を手にしたマイケルは殺戮を繰り返すことに。ベビーシッターのアルバイトをしていた女子高生ローリーも命を狙われるが…。

ジョン・カーペンター監督の大ヒット・ホラー。

目を覆いたくなるむごいシーンがありますが、ブギーマンのえげつない強さは必見。ホラー映画を語る上で絶対見ておきたい作品です。

2. スケアリー ストーリーズ

ハロウィンの夜、町外れにある屋敷に忍び込んだ子どもたちが一冊の本を見つける。その本には数々の恐ろしい話がつづられており、本を持ち帰った次の日から、子どもがひとりまたひとりと消えていく。さらに、その「怖い本」には、毎夜ひとりてに新たな物語が追加されていき…。



「シェイプ・オブ・ウォーター」でアカデミー賞を受賞したギレルモ・デル・トロが企画・製作を手がけています。

本の中から飛び出した怪物たちの不気味なビジュアルは必見です。「青白い女」は有名ですが、個人的に「ジャングリーマン」が強くてわくわくします。

3. ペイ・ザ・ゴースト～ハロウィンの生贄～

ハロウィン・カーニバルで大学教授マイクの息子チャーリーが忽然と姿を消した。疎遠状態の妻とともに失踪した息子の謎を追うマイクは、ハロウィンに子どもが行方不明になる事件が頻発している事実気づき、事件の核心に近づいていく。

ティム・レボンによる同名短編小説を映画化したホラー映画。

序盤のハロウィン・カーニバルのシーンは鮮やかな映像で思わず見入ってしまいます。ファンタジー色が強く、家族愛が濃く出ている作品ですので、洋画ホラー特有のスプラッタ描写が苦手な方にも見やすいと思います。



10月31日の夜はあの世とこの世の境目がなくなり、死者の霊が親族を訪ねてくるのですが、一緒に悪霊も一緒にやってきて子供をさらったり、作物に悪い影響を与えたりするそうです。そこで人々は悪霊を追い払うために仮装をしたり、魔よけの焚火を行ったといわれています。そんな日にホラーをしてみるのはいかがでしょうか。



～新社員のご紹介～

7月より浜松営業所に配属されました、永瀬愛実（ながせまなみ）です。

事務職は初めてなのでご迷惑をかけることがあるかと思いますが、早く浜松営業所の戦力になれるよう精進しますので、ご指導よろしくお願ひいたします。



そして、10月21日から弊社の富士営業所に新しい仲間（事務員）が入る予定です。会える日が楽しみです。

浜松営業所 永瀬愛実